

令和5年度 かながわティーチャーズカレッジ

COLLEGE NEWS

カレッジニュース



令和5年10月1日 発行
神奈川県立総合教育センター
かながわティーチャーズカレッジ事務局
(教育人材育成課キャリア開発班)

第4回 かながわ教育学講座

令和5年9月17日、第4回かながわ教育学講座が開催されました。第4回教育学講座のテーマは「信頼される教員」です。神奈川県立総合教育センター 梶原教育指導専門員による講義「教員に求められるコンプライアンス」と同じく鈴木教育指導員による講義「社会人としての自覚と責任、信頼関係の構築」が行われ、その後各グループで「信頼される教員となるために」について協議が行われました。

講義「教員に求められるコンプライアンス」

講義「教員に求められるコンプライアンス」では、教員一人ひとりが「神奈川県の教員」という看板を背負っていることを自覚し、懲戒処分を対岸の火事と思わず、当事者意識を持つことや気を引き締めることが大切であると説明されました。事例を踏まえ、「教員におけるコンプライアンスとは何か」について考えました。具体的には不祥事は、「機会：不正を可能にする環境」「動機：不正に駆り立てる個人的要因」「正当化：不正を自ら正当化してしまう」の3要因の重なりが不正を誘発してしまうと話がありました。こうした事態を絶対に起こさないために、対話し、支え合い、学び合い、同僚性を高めることが大切であることが受講者に伝えられました。

講義「社会人としての自覚と責任、信頼関係の構築」

講義「社会人としての自覚と責任、信頼関係の構築」では、社会人と学生の違いや社会人に求められるスキル、信頼を得るために心がけたいことについて説明されました。社会人とは社会との関わりの中で、一定の責任を持って行動したり、生活したりしている人のことを示し、その責任は組織全体に及ぶものであると説明されました。また、講義の中で社会人に求められるスキルとして、「帝国データバンク調査」結果では、企業がコミュニケーション能力の高さや意欲を新入社員に求めていることが示されました。「神奈川県のめざすべき教職員像」でも求められる人格的資質・情熱として「豊かな人間性と社会性、高い対人関係能力とコミュニケーション能力をもっている」などが挙げられています。受講者の中からも信頼を得るための心構えとして「時間厳守」や「報告・連絡・相談をする。」などの意見が挙がりました。



受講者のワークシートより

《オープンコース》

教職員はいろいろな場面で、見られていると意識して行動しなければならない。社会人として負わなければならない責任は、初任者でもベテランでも関係なく果たさなければならない。どんなに頑張っても不祥事を起こせばすべて無になってしまうことを強く意識する必要がある。

《チャレンジコース小学校》

今回の前半の講義で教員の不祥事について考えた。最近ニュースで取りあげられる度に、「教師なのに酷いな」という外からの視線を持っていた。しかし今日の講義を通して、今後教員として働く時は常にアンテナを張り、「チーム学校」としてそのような不祥事を防いでいかなければならないのだと自覚した。そして社会人としての自覚や責任について、まずは人として相手から信頼されるようになりたいと考えた。このティーチャーズカレッジにおいても一人の人間として信頼される為にあいさつやルールを守ること、コミュニケーションを取ることなど、教員になるまでに実践できることではないかと気付いた。残りのグループワーク等を通して、まずは人として更に成長していけるよう取り組んでいきたい。

「教員に求められるコンプライアンス」の講座を受け、不祥事があった場合は、傷を負っている児童がいるということを常に頭に入れておかなければならないと思った。自分にはありえないこととは思わずに、自分をよく知り、起こりえるかもしれないと考え、そうならないためにどうしていくかを行動として表していかなければならないと感じた。信頼される教員になるためのマンドラートを記入してみて、全ての欄を埋めるのは時間がかかったが、自分に足りないことについて自分と向き合え、有意義な時間となり、楽しくもあった。まだ完成していない部分を完成させたい。

《チャレンジコース特別支援学校》

今回はマンドラートを使って、自分の目指すべき教職員像・社会人像に向けて、今の自分に必要なことについてまとめました。目標実現のための手立てとして、大きな枠組みから単語を抜き取り掘り下げていくことで、手立てがより具体的になり、今からできることとしてまとめることができました。常に目にとまる場所に掲示して、日頃から意識して行うことができるとうれしく感じました。信頼関係を築くうえで人間性という言葉がよく出てくるが、一言で片付けてしまうのではなく、どうしたら信頼される人間性を備えられるようになれるのか考え、誠実さ・思いやりの心を持って対等な関係性を築くことができるとよいと改めて感じました。

《チャレンジコース中学校英語又は高等学校英語/中学校国語又は高等学校国語》

社会人として、教員として、自分の行動に責任感をしっかり持ちながら行動していくことの重要性を改めて感じた。自分の行動が、いつ、どのような形でコンプライアンスを破り、自分の人間性についての評価に影響していくかは分からないため、無知なままでなく、しっかりと知識を付けて日頃から行動していこうと考えた。また「信頼される教員」になるため、とても多くの点で成長していかなければならないことを実感し、今後の生活で一つ一つの項目を達成できるよう精進していく。